



|              |                                                                                     |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | インドネシア語における時の区分に関する一考察                                                              |
| Author(s)    | 森村, 蕃                                                                               |
| Citation     | 大阪外国語大学論集. 1996, 15, p. 41-58                                                       |
| Version Type | VoR                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/79701">https://hdl.handle.net/11094/79701</a> |
| rights       |                                                                                     |
| Note         |                                                                                     |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## インドネシア語における時の区分に関する一考察

森 村 著

### Masalah Pembedaan Waktu Deiktis dalam Bahasa Indonesia

Shigeru MORIMURA

Di alam ini terdapat berbagai fenomena, baik yang bersifat dinamis maupun yang bersifat statis. Kalau fenomena seperti itu dituturkan orang dalam bahasa, memang tuturannya itu menandakan waktu (*time*). Sebagai kategori gramatikal penanda waktu terdapat kala (*tense*) dan aspek (*aspect*). Bahasa Indonesia terkenal sebagai bahasa yang tidak mengenal kala dan aspek sebagai kategori gramatikal perubahan bentuk verba. Tetapi, karena apa yang dituturkan orang mengenai fenomena dalam bahasa Indonesia juga menandakan waktu deiktis, maka telah dilakukan kategorisasi waktu deiktis dalam bahasa Indonesia oleh para ahli bahasa berdasarkan kala. Namun, cara mereka untuk membedakan waktu berbeda-beda, dan menimbulkan masalah yang harus dibahas seperti pengacauan kala dengan aspek. Kalau berdasarkan kategorisasi kala yang bersendikan peralihan waktu, waktu deiktis dalam bahasa Indonesia dapat dibedakan menjadi dua, yaitu waktu yang dibedakan menurut *Absolute Tense* dan waktu yang dibedakan menurut *Relative Tense*. Pembedaan waktu menurut *Relative Tense* dalam bahasa Indonesia belum pernah dibahas secara jelas.

#### 0. はじめに

我々を取り巻く現実の世界には、様々な事象が存在する。出来事や過程のような「動き」として認知される事象もあれば、「静的な状態」として認知される事象もある。この実世界の様々な事象を観察者（話者）が知覚、ないし認知して言語化しようとする。そして、言語化された事象表現は、「時（とき）」と無縁ではない。即ち、時を表現していて、この時の表現に係わる文法範疇として

時制（テンス）と相（アスペクト）がある。インドネシア語は述語に時制やアスペクトを示す一定の文法形式を持たない言語として知られているが、だからと言って、インドネシア語の話者が時の概念を持たないことにならない。インドネシア語による事象表現も話者基準的（deictic）な時を表現しているところから、従来、時制に基づいて時を区分するという試みがなされてきた。しかし、諸家が試みた時の区分法は様々であり、それらには問題点が残されている。

本稿の目的は、時制に基づく諸家の時の区分法のうち代表的なものを検討したのち、時間の方向性に基づく時制の範疇化に従ってインドネシア語による事象表現が表す時の区分を考察することにある。

## 1. 時制について

事象の時の概念と係わりをもつ文法範疇として時制とアスペクトがある。これらは深い係わりを持っているが、アスペクトは事象の時間構成の捉え方に係わる範疇であるのに対して、時制は事象の時間の関係づけを表す範疇である。従って、時制はアスペクトとは異なる文法概念を表すものとして捉えなければならない。世界の言語には、時制を示す一定の文法形式が述語（主として動詞）に存在しているものもあれば、存在していないものもあることが指摘されている。印欧諸語では、時制の範疇は動詞の形に表示されるが、日本語では、動詞のほか、形容詞、形容動詞、述部名詞にも時制が認められるという<sup>1)</sup>。時制の表示方法は、動詞類に屈折接尾辞をつける方法に加え、派生接尾辞や時を示す副詞（句）による方法もあると言われる<sup>2)</sup>。時制の範疇化のうち最も頻度の高いものは、時間の方向性に基づく範疇化である。それによると、絶対時制（Absolute Tense）と相対時制（Relative Tense）の二種類が認められる。即ち、「過去」「現在」「未来」というように、事象の時間を発話時点と関係づけて事象がどの時点にあるのかという時間的位置関係を示すのが絶対時制である。一方、「以前」「以後」というように、事象の時間を或る基準時点と関係づけて事象の時間的位置関係を示すのが相対時制である。相対時制における或る基準時点のことは、「言及時点」「指定時点」などと呼ばれているが、本稿では「言及時点」という名称を用いることにする。

インドネシア語は、時制を表示する一定の文法形式が述語に欠く言語の部類に属する。しかしながら、インドネシア語による事象表現も時とは無縁なものではなく、話者基準的な時をも表しているところから、従来、時制に基づいて時を区分するという試みがなされてきた。次章では、諸家による時の区分法のうち代表的なものを紹介し、検討したい。

## 2. 諸家による区分法

Dr. C. H. Mees<sup>3)</sup> : Mees は、時の流れに従って「過去」(waktu lampau)、「現在」(waktu kini)、「未来」(waktu yang akan datang) の三種類に分ける。一方、事象の観察に従って「完了」(selesai)、「未完了」(sedang berlangsung)、「未然」(belum berlangsung) の三種類に分ける。そして、前者の区分を「時のレベル」(taraf waktu)、後者の区分を「事象のレベル」(taraf kejadian) と呼ぶ。彼による

と、インドネシア語には上述の二つのレベルの時の区分は動詞の形態に表示されないという。時は、時の表示詞（副詞や助動詞）によって明示されるのだと説明する。例えば、「未完了」を示すには副詞として *sedang* 「～している（持続）」、*lagi* 「～している（持続）」、「完了」を示すには副詞として *sudah* 「すでに、もう」、*telah* 「すでに、もう」、助動詞として *ada* 「～してある（結果）」、「未来」を示すには副詞として *akan* 「～であろう（未来）」、*kelak* 「後日」、*nanti* 「やがて」、助動詞として *hendak* 「～であろう（未来）」、*mau* 「～であろう（未来）」といった語彙をとり挙げている。

Mees の「時のレベル」の区分、即ち、「過去」「現在」「未来」という区分は、明らかに時間の方向性に基づいて範疇化された「絶対時制」を示している。しかしながら、「相対時制」による区分については全く触れられていない。一方、彼の「事象のレベル」の区分、即ち、「完了」「未完了」「未然」という区分は、むしろ、事象の時間構成の捉え方であるアスペクトの範疇に属するものであり、時制とは別の範疇として扱わなければならないであろう。

Husain Munaf<sup>4)</sup> : 彼は時 (*waktu*) を「継続」(*waktu sedang berlaku*)、「過去」(*waktu yang telah lalu*)、「未来」(*waktu yang akan datang*)、「不定」(*sebarang waktu*) に区分する。「継続」は動作や状態が継続する時を表し、「不定」は「時々」「たびたび」「常に」といったように事象時間が不定である時を表すという。そして、それぞれの時を表示するには時を表す語彙によって行うのだと説明する。例えば、「継続」の時を示すには *lagi* 「～している（持続）」、*sedang* 「～している（持続）」、*tengah* 「～している（持続）」、*masih* 「まだ」、*kini* 「現在」、*sekarang* 「今」、*hari ini* 「今日」、「過去」の時を示すには *sudah* 「すでに、もう」、*telah* 「すでに、もう」、*kemarin* 「昨日」、*tadi* 「先程」、*semalam* 「昨夜」、*dahulu* 「以前」、*minggu yang lalu* 「先週」、*dahulu kala* 「昔」、*waktu itu* 「その時」、*ketika itu* 「その時」、「未来」の時を示すには *akan* 「～であろう（未来）」、*bakal* 「～であろう（未来）」、*besok (esok)* 「明日」、*lusa* 「明後日」、*tulat* 「三日後」、*tubin* 「四日後」、*nanti* 「やがて」、*sementar lagi* 「もう少ししばらくすると」、*kelak* 「後日」、*bulan depan* 「来月」、「不定」の時を示すには *kadang-kadang* 「時々」、*tempoh-tempoh* 「時々」、*selalu* 「常に」、*sering kali* 「しばしば」、*sediakala* 「いつもの通り」、*senantiasa* 「いつも」といった語（句）を時の表示詞として挙げている。

Husain Munaf の4区分法のうち、「過去」と「未来」は、時間の方向性に基づく「絶対時制」の区分を示している。しかしながら、「継続」と「不定」という区分を「過去」や「未来」の区分と分けて設定することには問題がある。何故なら、継続する事象は、過去、現在、或るいは未来における或る時間的区間において成立する性質をもつものであり、また、「時々」「たびたび」「常に」といった不定の時を表す事象も、過去、現在、未来のいずれの時においても起こりうる性質をもつからである。また、事象が継続する時間は、事象の継続という時間構成の捉え方にも係わるもので、アスペクトと関係する問題である。彼の区分法はアスペクトが絡みこんだものとなっている。

B. Simorangkir-Simandjuntak<sup>5)</sup> : 彼は時の区分を「継続」(*waktu sedang berlakunya pekerjaan*)、「過去」(*waktu sudah berlakunya pekerjaan*)、「未来」(*waktu akan berlakunya pekerjaan*) の三区分とする。そして、インドネシア語の動詞形は時を表示しないために、時を明示するには時を表す語

彙によるのだと説明する。「継続」には *sedang*「～している (持続)」, *tengah*「～している (持続)」, *masih*「まだ」, 「過去」には *kemarin*「昨日」, *sudah*「すでに, もう」, *telah*「すでに, もう」, 「未来」には *besok*「明日」, *hendak*「～であろう (未来)」, *akan*「～であろう (未来)」といった語が時の表示詞として取り上げられている。彼も, 「継続」という区分を「過去」や「未来」の区分と区別して設定している。彼の区分法もアスペクトが絡んだものとなっている。

J. Muh. Arsath Ro'is<sup>6)</sup>: 彼は, インドネシア語の動詞には時制を表示する形態変化がないために, *saya makan* という表現は, *ik eet*「私は食べる」(現在), *ik at*「私は食べた」(過去), *ik heb gegeten*「私は食べてしまった」(完了) という意味を表すのだと説明する。彼は, 時制に基づいて時を4種類, 即ち, 「現在」(*de tegenwoordige tijd*), 「過去」(*de verleden tijd*), 「完了」(*de voltooid tijd*), 「未来」(*de toekomstige tijd*) に区分する。彼の説明によれば, 時の判断は会話や文脈の流れによるが, 「過去」は *tadi*「先程」, *kemarin*「昨日」, 「完了」は *sudah*「すでに, もう」, *telah*「すでに, もう」, 「未来」は *akan*「～であろう (未来)」, *hendak*「～であろう (未来)」, *mau*「～であろう (未来)」といった時の付加詞 (*tijdsbepaling*) によって表示されるのだという。彼の区分法では「過去」「現在」「未来」という絶対時制を示す時の区分のほか, 「完了」という時の区分が見られる。「完了」の時を表す例文としては, 次のようなものがオランダ語訳と共に示されている。

|                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| <i>Saya sudah makan.</i> | <i>Ik heb (al) gegeten.</i>   |
| <i>Ia sudah pergi.</i>   | <i>Hij is (al) weggegaan.</i> |

オランダ語訳に *heb gegeten*「食べ終えた」, *is weggegaan*「立ち去った」という現在完了形が用いられているところから, 最初の文は「食べる」という動きが過去において完了したことを表しており, あとの文は「立ち去る」という動きが過去において実現したことを表している。では, 上文はテンス的に「過去」との違いはいかなるものであろうか。このことに関して何の論述もなされていない。彼の区分法では「過去」と「完了」の違いが不明確である。

Purwanto Danusugondo<sup>7)</sup>: 彼は, 時制に基づいて時を「習慣」(*Habitual Tense*), 「過去」(*Past Tense*), 「完了」(*Completed Tense*), 「進行」(*Progressive Tense*), 「未来」(*Future Tense*) の5種類に分ける。彼も, それぞれの時は時を表す語彙によって表示されるのだと説明する。彼の区分法における「習慣」の時は, 行わないし状態が習慣的なことを示すものであるという。そして, *biasanya*「通常」, *jarang*「稀な, めったに～しない」, *kadang-kadang*「時々」, *pada hari Minggu*「日曜日に」, *selalu*「いつも」, *setiap hari*「毎日」, *sering*「しばしば」, *tidak pernah*「決して～しない」といった語(句)が習慣的な行為や状態を示すのに用いられるとして, 次のような例文と英語訳を挙げている。

John belajar bahasa Indonesia setiap hari.

——John studies Indonesian every day.

Saya biasanya bangun pada jam tujuh.

——I usually get up at 7.

Kadang-kadang kami pergi melihat bioskop.

——Sometimes we go to see a movie.

Bob selalu minum kopi.

——Bob always drinks coffee.

Sue pergi ke gereja pada hari Minggu.

——Sue goes to church on Sundays.

Pak Hadi sering menerima surat dari Indonesia.

——Mr. Hadi often receives letters from Indonesia.

Saudara jarang datang ke rumah kami.

——You rarely come to our home.

Ayah tidak pernah lupa pipanya.

——Father never forgets his pipe.

Teman saya selalu malas.

——My friend is always lazy.

例文の英語訳を見れば、彼が設定する「習慣」の時は、現在における習慣的なことを示す時の区  
分であると捉えられる。しかし、習慣を表す事象は現在に限られたものではない。過去における、  
或るいは未来における習慣を表す事象も存在する。そもそも、「習慣」というのは事象自体の持つ  
性質にすぎないのであって、事象の中には習慣性を持つ事象が存在するのである。従って、「習慣」  
を時の1区分に設定して「過去」や「未来」の時と分けることには問題がある。

次に、彼の区分法に見られる「完了」の時は、或る行為ないし状態が過去の或る時点に始まり、  
現在まで継続したことを示すものであると説明されている。そして、「完了」の時を表示するのに  
動詞の前に sudah (already の意) という語と他の適当な時の表現が用いられるとして、次の例文と  
英語訳が挙げられる。

Saya sudah belajar bahasa Indonesia selama setahun.

——I have studied Indonesian for a year.

Saya sudah makan. Saya masih kenyang.

——I have eaten. I am still full.

Mereka sudah tidur.

—They have gone to bed.

John sudah mengantuk juga.

—John is already sleepy, too.

Pak Hadi sudah tinggal di sini selama sembilan bulan.

—Mr. Hadi has lived here for nine months.

Kami sudah tinggal di Sydney sejak tahun 1960.

—We have lived in Sydney since 1960.

Paman saya sudah pindah ke kota sekarang.

—My uncle has moved to the city now.

彼の説明と例文から明らかなように、彼の区分法に見られる「完了」の時は、「現在」を言及時点とし、それを基準に事象時間をはかるという相対的な時間の関係づけを表すものである。つまり、相対時制を表しているのであるが、「過去」や「未来」のような絶対時制を示す区分と同じレベルで扱われている。彼の区分法では、絶対時制と相対時制の関係が不明確なものとなっている。

次に、彼の区分法に見られる「進行」の時とは、或る行為が進行することを示すものと説明されている。そして、「進行」の時を表示するのに動詞の前に sedang「～している（持続）」という語が用いられるとして、次のような例文と英語訳が挙げられている。

John sedang belajar di kamarnya.

—John is studying in his room.

John sedang tidur.

—John is sleeping (asleep).

Keluarga Brown sedang berlibur di luar negeri.

—The Browns are holidaying abroad.

Pak Hadi sedang memeriksa pekerjaan rumah pelajar-pelajarnya.

—Mr. Hadi is correcting the students' homework.

Bob tidak pergi ke kuliah. Dia sedang sakit.

—Bob did not go to the lectures. He is ill.

そして, sedang という語が用いられた構文が示す時は現在に限定されないことが述べられ, 次のような例文と英語訳が与えられている。

John sedang mandi kemarin.

—John was having a shower yesterday (when I rang him up).

或る行為が進行することを表す事象は、話者の発話時点（現在）において成立するのみならず、「過去」、或るいは「未来」の或る時間的区間においても成立する性質を持つ。従って、テンス的に「進行」という時の区分を設けて「過去」や「未来」の時と分けることには問題がある。「進行」という時は、むしろ、事象の持続という時間構成の捉え方に係わるアスペクトと関係があり、彼の「進行」という時の区分はアスペクトの範疇が絡みこんだものとなっている。

John B. Kwee<sup>8)</sup>：彼は、時を「未来」(the future)、「継続」(the continuous tense)、「過去」(the past)、「完了」(the perfect tense) という4種類に分類する。インドネシア語の動詞は数、人称、時制に従って活用しないが、時を表す手段 (means to express the tenses) があり、「未来」の時は mau 「～であろう (未来)」, akan 「～であろう (未来)」, hendak 「～であろう (未来)」という語、「継続」の時は sedang 「～している (持続)」, masih 「まだ」, lagi 「～している (持続)」という語、「過去」の時は kemarin 「昨日」, minggu yang lalu 「先週」のような過去を示す語 (句)、「完了」の時は telah 「すでに、もう」, sudah 「すでに、もう」, baru 「～したところ」という語によって表示されるという。

彼の区分法にも「継続」と「完了」という時の区分が見られる。「継続」の時を示す例文として次のようなものが英語訳と共に挙げられている。

Ayah masih mandi.

Father is having a bath.

Darmo sedang makan.

Darmo is eating.

Ia lagi menyeberang jalan ketika ia melihat temannya.

He was crossing the street when he saw his friend.

上例の英語訳から明らかなように、はじめの二例は、話者の発話時である現在において成立する事象を表しているのに対して、最後の例は、話者の発話時点から見た過去の時間的区間において成立する事象を表している。つまり、はじめの二例はテンス的には「現在」、最後の例は「過去」を示している。にもかかわらず、彼は「継続」という時の区分を設けて「過去」の時と分けることを試みている。彼の区分法もアスペクトが絡んだものとなっている。

次に、「完了」の時を示すという例文と英語訳を見てみよう。

Orang sakit itu telah sembuh.

The sick man has recovered.

Tuan Fry sudah kembali ke Inggeris.

Mr. Fry has returned to England.

Adik saya baru bangun.

My little brother has just woken up.

「完了」の時にに関する解説が何も与えられていないので、よく分からないが、上例の英語訳には現在完了形が用いられていることから、例文が示す事象の動き、即ち、sembuh「回復する」、kembali「戻る」、bangun「起きる」という動きは、既に過去において実現したことを示している。では、「完了」の時と「過去」の時の区別はいかなるものであろうか。この点が彼の区分法においても不明瞭である。

### 3. インドネシア語における時の区分

前章において時制に基づく諸家の時の区分法のうち、代表的なものを検討してきた。これまでに明らかにされたことは、インドネシア語において述語に時制を示す一定の文法形式が存在しないこと、時は文脈、状況により判断されるということ、時を表す語彙によって時が明示されるといったことである。しかし、時の区分にあたって時制の定義づけが明確に行われず、諸家の区分法に異同がある。また、「継続」や「進行」の区分のように、時制とアスペクトの混同も見られる。既に明らかな通り、インドネシア語において時制に基づく時の区分は、従来、時間の方向性に基づいて行われた。諸家の区分法の中に「過去」や「未来」のような区分が見られるように、絶対時制に基づく時の区分が試みられたようであるが、相対時制に基づく時の区分は、その可能性があるにもかかわらず、明確にされるに至らなかった。

本章では、これまでの経緯を踏まえ、時間の方向性に基づく時制の範疇化に従ってインドネシア語の事象表現における時の区分について考察したい。

次の文を見よう。(文の最後の括弧内は、後述の参考文献の番号とページを示す。また、文の次に日本語訳を鉤括弧で示す。以下、同じ。)

[1]

Teman Kita, John Smith

John Smith seorang mahasiswa di Universitas Hawaii. Dia sekarang sedang belajar bahasa Indonesia karena dia akan berangkat ke Indonesia pada tanggal 15 April tahun depan. Dia akan mengadakan riset di Yogyakarta, Surabaya, dan Medan. Dia mengambil jurusan ilmu politik; karena itu, riset dia tentang politik di Indonesia waktu ini.

Pak Hardjono mengajar bahasa Indonesia. Dia guru John Smith. Dia dan anak-istrinya datang di

Honolulu tahun 1970. Sekarang mereka tinggal di Jalan Pali nomer 271. Udara di Honolulu lebih dingin daripada udara di Jakarta, dan ini sangat cocok untuk Bu Hardjo.

<sup>(4)</sup> Bapak Dutabesar malam Minggu yang lalu mengadakan pesta perpisahan untuk John.  
<sup>(5)</sup> Mereka makan ayam, gado-gado, sayuran, dan sebagainya. John tidak suka minum wiski. Dia hanya minum kopi panas. Pacarnya lebih suka minum teh. Lima orang Indonesia dan enam orang Amerika juga datang. Pesta itu sangat ramai, dan mereka tinggal sampai jam 1 malam. (1. p. 91)

「 私達の友人のジョン・スミス

ジョン・スミスはハワイ大学の学生です。彼は、来年の4月15日にインドネシアへ出発するために、現在インドネシア語を学んでいます。彼は、ジョクジャカルタとスラバヤとメダンで調査を行うことになっています。彼は政治学を専攻しています。そのため、彼の調査は現在のインドネシアの政治に関する調査です。

ハルジョノ先生はインドネシア語を教えています。彼はジョン・スミスの先生です。彼と彼の妻子は、1970年にホノルルにやって来ました。現在、彼らはパリ通り271番地に住んでいます。ホノルルの気候はジャカルタの気候よりひんやりしていて、これがハルジョノ夫人にとっても合っています。

大使が、この前の土曜日の夜にジョンの送別会を開いてくださいました。彼らは鶏肉料理、ガドガド、野菜料理などをいただきました。ジョンはウイスキーが好きではありません。彼はただホット・コーヒーをいただきました。彼のガールフレンドは紅茶の方が好きです。5人のインドネシア人と6人のアメリカ人もやって来ました。そのパーティーはとても賑わい、彼らは夜の1時までいました。」

上の文において、下線部分(1)が示す事象は、*sekarang*「現在」という現在時を表す語により話者の発話時点において成立している事象であるということが分かる。即ち、(1)が示す事象は、話者の発話時点と同じ「現在」に位置づけられる。下線部分(3)が示す事象は、文脈により話者の発話時点において成立している事象であることが明らかであり、話者の発話時点と同じ「現在」に位置づけられる。一方、下線部分(2)が示す事象は、*akan*「～であろう(未来)」という未来の時を表示する語と文脈(前の文中の *tahun depan*「来年」など)により話者の発話時点より未来時において成立する事象であるということが分かる。即ち、(2)の事象は、話者の発話時点より後の「未来」に位置づけられる。次に、下線部分(4)が示す事象は、*malam Minggu yang lalu*「この前の土曜日の夜」という過去の時を表示する語彙によって話者の発話時点より過去時において成立した事象であるということが分かる。即ち、(4)の事象は、話者の発話時点より前の「過去」に位置づけられる。下線部分(5)が示す事象は、文脈により話者の発話時点より過去時に、つまり、この前の土曜日の夜の送別会の時に成立した事象であることが明らかであり、これも話者の発話時点より

前の「過去」に位置づけられる。

[2]

Mengunjungi Teman

Amin : Selamat pagi.

Ria : Selamat pagi.

Amin : Nama saya Amin. Saya ingin bertemu dengan teman saya.

Ria : Apakah dia bekerja di sini?

Amin : Ya, dia bekerja di sini.

Ria : Siapa nama teman Bapak?

Amin : Namanya Sarwono.

Ria : Oh, ya. Sebentar, ya, Pak, saya telepon dulu. Halo, Pak Sarwono. Ini ada Pak Amin, teman Bapak. Silakan, Pak, saya tunjukkan kamar Pak Sarwono.

Amin : Terima kasih. (2. p. 75)

「友人を訪ねる

アミン：おはようございます。

リア：おはようございます。

アミン：私はアミンと申します。私の友人に面会したいのですが。

リア：その方はここに勤めているのですか。

アミン：はい。ここに勤めています。

リア：何と言う名前でしょうか。

アミン：サルウォノと言います。

リア：ああ、そうですか。しばらくお待ち下さいね。まず電話をしてみましょう。もしもし、サルウォノさんですか。こちらにあなたの友人のアミンさんが来ておられます。（アミンに向かって）どうぞ。サルウォノさんの部屋にご案内いたしましょう。

アミン：ありがとうございます。」

上文において、下線部分（1）と（2）が示す事象は、会話場面の状況により話者の発話時点より未来時に成立する事象であるということが分かる。即ち、（1）と（2）が示す事象は、話者の発話時点より後の「未来」に位置づけられる。

このように、インドネシア語においても文の表す事象は、話者の発話時点を基準にして時間的に位置づけられる。絶対時制に基づいて、即ち、話者の発話時を「現在」、発話時より前を「過去」、発話時より後を「未来」として事象が表す時を区分することが可能である。

次に、各文における下線部分が示す事象時間を見よう。

[3]

Pada satu pagi, perkutut Pak Sastro hilang. Pintu sangkarnya terbuka. Sangkarnya kosong.

Pak Sastro tak percaya. Bagaimana mungkin?

<sup>(1)</sup>Perkututnya telah sepuluh tahun bersama dia. <sup>(2)</sup>Tak pernah hilang. Dulu, lebih sepuluh tahun yang lalu, burung itu dibelinya di pasar burung Pasar Senen, ketika ia di Jakarta untuk menguburkan Si Amat, anaknya satu-satunya, yang tergilas kereta api.

Ia sedang jalan-jalan tak menentu ke pasar burung itu, sehabis pulang menguburkan. Hatinya pedih. Untuk siapa lagi masih perlu hidup?

<sup>(3)</sup>Istrinya telah lama meninggal. Disergap banjir, ketika tanggul waduk dekat desanya pada satu pagi bobol. Bu Sastro, sedang menjemur padinya di halaman, ikut diseret banjir yang datang sangat tiba-tiba. .... (3. p. 8)

「或る朝、サストロさんのキジバトが姿を消した。鳥籠の扉が開いていた。鳥籠はからっぽだった。

サストロさんは信じられなかった。どうしたことなんだろう？

彼のキジバトは、すでに20年、彼と一緒にいたのだった。姿を消したことがなかった。昔、10年以上も前に、その鳥は、汽車に轢かれて（亡くなった）一人っ子のアマツ君を埋葬するためにジャカルタに来ていたときに、パサル・スネンの鳥市場で買ったのだった。

彼は、埋葬から帰って、その鳥市場へ向かってあてもなく歩いていた。心が痛んだ。もう誰のために生きていく必要があるのだろうか。

彼の妻がこの世を去って長い期間が過ぎていた。妻は、村の近くにある貯水池の堤防が或る朝、決壊したときに、洪水に襲われた。妻は、庭で稲を干していたときに、急に襲ってきた洪水にひき込まれたのだった。……」

上文の下線部分（1）は、telah sepuluh tahun「すでに10年」という期間を表す表現と文脈によって「キジバトがいなくなった或る朝」の時点で「彼のキジバトがそのときまで10年間、彼に飼われていた」ことを述べる文であることが分かる。「キジバトがいなくなった或る朝」が話者の言及時点となっており、（1）が表す事象の時間的位置は言及時点より「以前」である。下線部分（2）は、文脈により「キジバトがいなくなった或る朝」の時点で「キジバトがそれまで姿を消したことがなかった」ことを述べる文であることが明らかであり、（1）の場合と同様、「キジバトがいなくなった或る朝」が話者の言及時点となっている。従って、（2）が表す事象の時間的位置も言及時点より「以前」である。下線部分（3）は、telah lama「すでに長い間」という期間を表す表現と文脈によって「キジバトがいなくなった或る朝」の時点で「彼の妻が亡くなって長い期間が経過していた」ことを述べる文であることが分かる。（3）が表す事象の時間的位置も話者の言及時点、即ち、「キ

ジバトがいなくなった或る朝」より「以前」である。

[4]

DILARANG MEMBUANG SAMPAH DI JALAN

Seluruh keluarga sudah siap untuk berangkat. Semua pintu dan jendela sudah dikunci.

Mobil jeep sudah menunggu di depan rumah. "Mobil sudah dicuci?" tanya Ayah kepada Saiman.

"Sudah, Pak," jawab Saiman, supir kami.

Tiba-tiba Adi berteriak: "Pak, garasi belum ditutup."

Segera Saiman pergi menutup pintu.

Tiga buah kopor ditaruh di dalam jeep. "Kopi siapa ini?" tanya Ibu. "Pak, kopimu belum diminum."

Tidak lama kemudian, mereka sudah dalam perjalanan ke lapangan udara. "Oh ya," kata Ayah. "Saya hampir lupa. Di mana tiket kita?" Dia memeriksa semua tasnya. Ia mengeluarkan semua kertas yang tidak perlu dan membuangnya ke jalan.

"Hei, hei, Pak," teriak Mimi, adik kami yang paling kecil. "Jangan, Pak! Dilarang membuang sampah di jalan." (4. p. 103)

「道路に塵を捨てることを禁ず

家族は皆、出発の用意ができました。(家の)すべてのドアと窓に鍵がかけられました。

ジープ(小型自動車)が家の前で待っていました。『ジープを洗ったの?』と父がサイマンに尋ねました。『洗いました。』と私達の運転手であるサイマンが答えました。

突然、アディが叫びました。『お父さん、ガレージをまだ閉めていないよ。』

すぐに、サイマンが閉めに行きました。

トランクが三つジープに積まれました。『これは誰のコーヒーなの?』と母が尋ねました。『お父さん、コーヒーをまだ飲んでいませんよ。』

その後まもなく、彼らは空港に向かいました。『ああ、そうそう。』と父が言いました。『忘れかけていた。我々の切符はどこに入れてあるのだろうか。』彼は彼の鞆を全部、調べました。彼は unnecessaryな紙をすべて取り出して、道路に捨てました。

『やあ、やあ、お父さん。』と、一番年下の妹のミミが叫びました。『いけないよ。道路に塵を捨てるのは禁じられているよ。』

上文は、或る家族が空港に向かう日の出来事を述べている。下線部分は、sudah「すでに、もう」という時の表示詞と文脈によって「家族が空港へ出発する時点」で「ジープが家の前ですでに待っていた」ことを述べる文であることが分かる。この場面では、「家族が空港へ出発する時点」が話

者の言及時点となっている。従って、下線部分が表す事象の時間的位置は、言及時点より「以前」である。

[5]

PERGI BERENANG

Anak-anak sudah pulang dari sekolah. Ayah juga sudah pulang, tetapi Ibu masih di pasar. Dia belum kembali.

<sup>(1)</sup> Sore itu mereka akan pergi ke Cisarua. Mereka sudah lama tidak berenang. Cisarua kira-kira 70 km dari Kebayoran. Tempatnya sejuk, tingginya 800 meter. <sup>(2)</sup>

”Horee, itu Ibu sudah datang!”

Mereka taruh tas-tas dan kopor-kopor di dalam mobil. Mereka tak lupa membawa makanan, roti, kue-kue dan lain-lain. Mereka juga membawa termos untuk air panas. Mereka akan lewat jalan baru, Jalan Jagorawi. Jalan ini jauh lebih pendek dan jauh lebih bagus. Jam 4 sore mereka berangkat. Mereka akan tinggal di Cisarua dua malam. Hari Senin pagi mereka harus kembali ke Jakarta. <sup>(3)</sup>  
<sup>(4)</sup>

(4. p. 55)

「 水泳に出かける

子供たちは学校から帰ってきました。父も帰ってきましたが、母はまだ市場でした。母はまだ帰ってきませんでした。

その日の午後に、彼らはチサルアへ出かけることになっていました。彼らは長い間、水泳をしていませんでした。チサルアはクバヨランからおよそ70キロメートルのところにあります。そこは涼しく、標高800メートルです。

『フレー！ ほら、お母さんが帰ってきたよ。』

彼らは鞆とスーツケースを車に積み込みました。彼らは食べ物、パン、お菓子などを忘れずに持っていきました。また、お湯を入れる魔法瓶も持っていきました。彼らはジャラン・ジャゴラウィという新しい道を通る予定でした。その道ははるかに近道で、また、ずっと素晴らしい道です。午後4時に彼らは出発しました。彼らはチサルアに二晩、滞在する予定でした。月曜日の朝に、ジャカルタに戻らなければなりませんでした。」

上文は、或る家族がチサルアの地へ水泳に出かける週末の日の出来事を述べている。下線部分(1)は、akan「～であろう（未来）」という未来時の表示詞と文脈によって話者の言及時点である「昼下がり」より以後、即ち、その日の午後に起きる事象を表していることが分かる。従って、(1)の事象の時間的位置は言及時点より「以後」である。下線部分(2)は、sudah lama「すでに長い間」という期間を表す表現と文脈によって「昼下がり」の時点で「彼らがそれまで長い間、水泳をして

いなかった」ことを述べる文であることが分かる。(1)の場合と同様、(2)も「昼下がり」の時点が話者の言及時点であるが、(2)が表す事象の時間的位置は言及時点より「以前」である。下線部分(3)は、akan という未来時の表示詞と文脈によって「彼らが出発の準備をした時点」、即ち、話者の言及時点より「以後」に起きる事象を表していることが分かる。下線部分(4)も、akan という未来時の表示詞と文脈から「彼らの出発時点」、即ち、話者の言及時点より「以後」に起きる事象を表していることが分かる。従って、(3)と(4)の事象の時間的位置は言及時点より「以後」である。

[6]

Asma — Minah, engkau sudah makan siang?

Minah — Belum, saya akan pergi makan sekarang. Asma, mari kita pergi ke restoran.

Asma — Ke restoran mana?

Minah — Ke restoran Tionghoa. Dekat bioskop Cinema. Tidak jauh dari sini. (5. p. 91)

「アスマ——ミナー、もう昼食をすませたの？」

ミナー——まだよ。これから食事に行くつもりよ。アスマ、レストランへ行きましょう。

アスマ——どこのレストランへ行くの？

ミナー——中華料理店へ行きましょう。シネマ映画館の近くにあるところよ。ここから遠くないわ。」

上の会話文の下線部分は、sudah「すでに、もう」という時の表示詞と文脈によって話者が発話時（現在）を言及時点として相対的に「もう昼食をしたか否か」を尋ねる文であることが分かる。話者が時間を言及時点との相対的な関係において計っていることは、話し相手 (Minah) の返事、即ち、「まだ食事をすませておらず、これから食事に出かけるのだ」という返事によって明らかである。つまり、下線部分は、発話時点である現在とは隔絶されたところの、単なる「過去」の出来事を述べたものではない。むしろ、話者が言及時点を発話時点と同じ「現在」に据えて、言及時点との相対的な関係において述べたものである。従って、下線部分が表す事象の時間的位置は、言及時点より「以前」である。

[7]

Belajar Bahasa Indonesia

James : Selamat pagi, Pak Hassan.

Hassan : Selamat pagi, Pak James. Pak James sudah pandai berbicara bahasa Indonesia?

James : Belum. Saya baru saja belajar bahasa Indonesia.

Hassan : Sudah berapa lama Pak James belajar bahasa Indonesia?

James : Sudah hampir setahun.

Hassan : Anda belajar bahasa Indonesia dengan siapa?

James : Saya belajar bahasa Indonesia dengan seorang guru wanita.

Hassan : Bagaimana guru Anda?

James : Orangnya baik. Cara mengajarnya juga cukup baik.

Hassan : Saya harap tidak lama lagi Anda akan lancar dalam bahasa Indonesia.

James : Saya harap begitu juga. (2. p. 275)

「インドネシア語の学習

ジェームス : ハッサンさん、おはようございます。

ハッサン : ジェームスさん、おはようございます。インドネシア語をうまく話せるようになりましたか。

ジェームス : まだです。インドネシア語を学びかけたところです。

ハッサン : インドネシア語を勉強してどのくらいたちますか。

ジェームス : もう一年近くになります。

ハッサン : 誰にインドネシア語を習っていますか。

ジェームス : 或る女性の先生に習っています。

ハッサン : その先生はいかがですか。

ジェームス : よい人です。教え方もかなり上手です。

ハッサン : あなたがまもなくインドネシア語を流暢に話せるようになることを願っています。

ジェームス : 私もそう願っています。」

上の会話文において、下線部分の(1)は、*sudah* という時の表示詞と文脈により、話者が言及時点を発話時点と同じ「現在」に据えて、相対的に「もうインドネシア語がうまくなったかどうか」を尋ねる文であることが分かる。下線部分の(2)は、*sudah berapa lama*「もうどの位の期間」という期間を問う語句と文脈により、話者が発話時を言及時点として言及時点との相対的な関係において「インドネシア語を学習し始めてもうどの位の期間が経過したか」を尋ねる文であることが分かる。下線部分(1)と(2)が表す事象の時間はいずれも言及時点と相対的に計られており、(1)と(2)が表す事象の時間的位置は、いずれも言及時点より「以前」である。

[8]

#### Pengangguran

Dahlan : "Hai, Mus. Apa kabar? Sudah lama kita tidak berjumpa."

Mustafa : "Baik-baik saja, Lan. <sup>(1)</sup>Memang sudah hampir 3 bulan kita tidak bertemu. Sejak pesta per-  
<sup>(2)</sup>

pisah di sekolah.”

Dahlan : “Apa kau sudah bekerja?”

Mustafa : “Belum, masih menganggur. Tiap hari saya mencari pekerjaan, tetapi sampai sekarang belum berhasil. Dan kau, apa sudah bekerja?”

Dahlan : “Juga belum. Banyak pengangguran dewasa ini. Saya telah mengirim beberapa pucuk surat lamaran kepada beberapa jawatan. Jawaban yang saya terima selalu: ‘Tidak ada lowongan’. Minggu yang lalu ada lowongan di sebuah pabrik rokok. Ada iklan di surat kabar harian. Cepat-cepat saya pergi melamar ke sana. Tetapi ketika saya tiba di sana, lowongan sudah diisi.<sup>(4)</sup> Puluhan orang yang datang melamar.”

Mustafa : “Ya, memang susah! Kalau saya tidak dapat pekerjaan sampai akhir bulan ini, saya harus pulang ke desa dan....bertani. Saya tahu menjadi petani tidak mudah karena harus mempunyai ketabahan yang luar biasa.” (5. p. 200)

「失業

ダフラン : やあ、ムス。ご機嫌いかが？久し振りだね。

ムスタファ : まあ元気だよ、ラン。実際、もう3ヶ月近く会っていないね。学校の送別会以来だ。

ダフラン : 勤めているのかい？

ムスタファ : まだなんだ。まだ失業中なんだ。毎日、仕事を探しているのに、今までまだ見つからないんだ。君は勤めているの？

ダフラン : 僕もまだなんだ。今、失業が多く起きている。僕は官庁の部局のいくつかに通の求職の願書を送ったが、返答はいつも「欠員がありません」ということだった。先週、或るタバコ工場に欠員があった。日刊紙の広告に出ていたよ。急いで求職のためにそこに出かけたが、着いたとき、欠員がすでにうまっていた。求職にやって来た者は数十人もいたのだ。

ムスタファ : そう、実際、大変だね！僕はもし今月の末までに仕事を得られなければ、村へ戻って・・・農業をしなければならない。農業従事者になるには並々ならぬ気力がなければいけないから、たやすくはないことは分かっている。」

上の会話文において、下線部分の(1)は、話者が発話時(現在)を言及時点として、相対的に「以前から今までの長い期間、お互いに会っていない」ことを述べる文である。これは、*sudah lama*「すでに長い間」という期間を表す語句と文脈によって明らかである。下線部分の(2)も、*sudah hampir 3 bulan*「もう3ヶ月近く」という期間を表す語句と文脈によって、話者が「もう3ヶ月近くお互いに会っていない」ことを発話時を言及時点として、言及時点との相対的な関係において述べる文であることが分かる。下線部分の(3)も、話者が言及時点が発話時の「現在」に据え

て、言及時点との相対的な関係において「もう働いているのか」どうかを尋ねる文である。これは、*sudah* という時の表示詞と文脈（とりわけ、話し相手の「まだ」という返答）により明らかである。下線部分の (4) は、言及時点、即ち、「話者が先週、タバコ工場に着いた」時点で「すでに欠員が満たされていた」ことを述べる文であり、*sudah* という時の表示詞と文脈によって明らかである。下線部分の (1), (2), (3), (4) が表す事象の時間的位置は、いずれも言及時点より「以前」である。

上例 [3] ～ [8] における下線部分が示す事象について既に明かなように、インドネシア語においても文の表す事象は、時間的に話者の言及時点との相対的な関係において位置づけられる。相對時制に基づいて、話者の言及時点より前を「以前」、話者の言及時点より後を「以後」として事象が表す時を区分することが可能である。

以上、時間の方向性に基づく時制の範疇化に従ってインドネシア語の事象表現における時の区分について考察してきた。その結果、インドネシア語による事象表現の時を時間の方向性に基づく時制の範疇化に従って区分するとすれば、絶対時制に基づく区分のみならず、相對時制に基づく区分も必要である。この点が従来、明確にされなかった点である。

#### 4. おわりに

世界の言語には、述語（主として動詞）に時制を表示する一定の文法形式が存在するものもあれば、存在しないものもある。時制体系も言語ごとに異なっている。時制の最も頻度の高い範疇化は時間の方向性に基づく範疇化であるが、多くの異なった方法での範疇化も可能であるといわれる。例えば、発話時を「過去」か「未来」のどちらかに含めて「過去」と「非過去」、或るいは「未来」と「非未来」といった二分法とか、「今」と「今でないとき」という区別に基づいて「現在」と「非現在」という二分法とか、近接性という概念に基づいて「近接」と「非近接」という二分法や「今」と「近接」と「遠隔」という三分法などがあり得るという<sup>9)</sup>。本稿では、インドネシア語の事象表現が表す時の区分を時間の方向性に基づく時制の範疇化に従って考察したが、他の違った方法による時制の範疇化に従って考察することも大切な課題ではないかと考える。

#### 注

- 1) 田中春美他編. 1988. 「現代言語学辞典」東京：成美堂. p. 675
- 2) *ibid.*
- 3) Dr. C. A. Mees. 1969. *Tatabahasa Dan Tatakalimat*. Kuala Lumpur, Singapura: University of Malaya Press. p. 227～228
- 4) Husain Munaf. 1951. *Tatabahasa Indonesia*. Djilid kedua. Tjetakan kedua. Djakarta: Fasco. p. 100～105
- 5) B. Simorangkir-Simandjuntak. 1955. *Tatabahasa Sederhana Bahasa Indonesia*. Djakarta: Erlangga. p. 65～66

- 6) J. Muh. Arsath Ro'is. 1977. *Bahasa Indonesia*. Keesing BV Amsterdam-Antwerpen. p. 44
- 7) Purwanto Danusugondo. 1975. *Bahasa Indonesia*. Book 1. Third Edition. Sydney: Sydney University Press. p. 41~47
- 8) John B. Kwee. 1965. *Teach Yourself Indonesian*. London: The English Universities Press Ltd.. p. 29~30
- 9) J. ライオンズ著 國廣哲彌他共訳. 1986. 「理論言語学」5版. 東京:大修館. p. 336~339

#### 参考文献

1. Soenjono Dardjowidjojo. 1978. *Sentence Patterns of Indonesian*. Honolulu: The University Press of Hawaii.
2. Dr. Liaw Yock Fang. 1990. *Standard Indonesian Made Simple*. Singapore • Kuala Lumpur: Times Books International.
3. Iwan Simatupang. 1975. *Kooong*. Jakarta: Pustaka Jaya.
4. A. M. Almatsier. 1983. *Efficient Bahasa Indonesia*. Jakarta: Mutiara.
5. Yohanni Johns. 1991. *Bahasa Indonesia*. Book One. Canberra: Australian National University Press.
6. Purwanto Danusugondo. 1975. *Bahasa Indonesia*. Book 1. Third Edition. Sydney: Sydney University Press.
7. Dr. C. A. Mees. 1969. *Tatabahasa Dan Tatakalimat*. Kuala Lumpur, Singapura: University of Malaya Press.
8. Husain Munaf. 1951. *Tatabahasa Indonesia*. Djilid kedua. Tjetakan kedua. Djakarta: Fasco.
9. B. Simorangkir-Simandjuntak. 1955. *Tatabahasa Sederhana Bahasa Indonesia*. Djakarta: Erlangga.
10. J. Muh. Arsath Ro'is. 1977. *Bahasa Indonesia*. Keesing BV Amsterdam-Antwerpen.
11. John B. Kwee. 1965. *Teach Yourself Indonesian*. London: The English Universities Press Ltd..
12. J. ライオンズ著 國廣哲彌他共訳. 1986. 「理論言語学」5版. 東京:大修館.
13. 田中春美他編. 1988. 「現代言語学辞典」東京:成美堂.
14. J. デュボワ他著 伊藤晃他編訳. 1980. 「ラールス言語学用語辞典」東京:大修館書店.
15. O. イェスベルセン著 半田一郎譯. 1958. 「文法の原理」東京:岩波書店.
16. 下宮忠雄他編著. 1985. 「言語学小辞典」東京:同学社.
17. H. ライヘンパッハ著 石本新訳. 1982. 「記号論理学の原理 (Elements of Symbolic Logic)」東京:大修館.
18. 崎山 理. 1979. 「インドネシア語のテンスとアスペクト」『アジア・アフリカ文法研究 8』: 55-70 東大アジア・アフリカ言語文化研究所.
19. J. Gonda. "Tense in Indonesian Languages" in *Bijdragen tot de Taal-Land-en Volkenkunde deel 110*, 1954: 240-262 's-Gravenhage-Martinus Nijhoff.
20. Bernard Comrie. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
21. 町田健著. 1989. 「日本語の時制とアスペクト」東京:アルク.
22. 国立国語研究所. 1991. 「現代日本語動詞のアスペクトとテンス」東京:秀英出版.

(1996. 5. 1 受理)